

多職種連携による在宅における薬学的管理推進モデル事業について

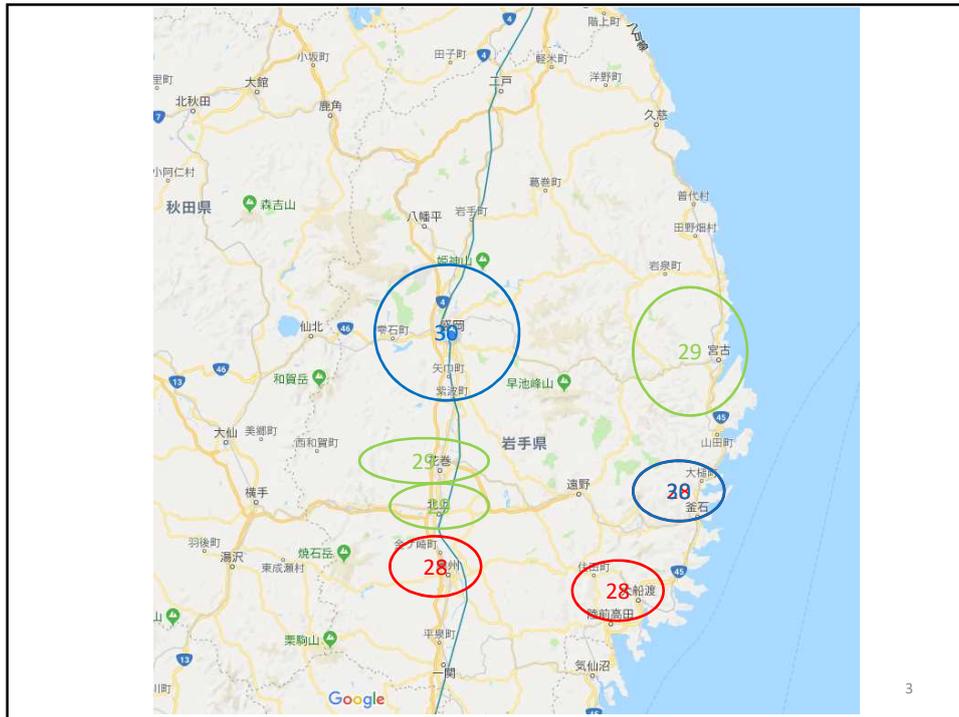
岩手県保健福祉部健康国保課

1

多職種連携による在宅における薬学的管理モデル事業(概要)

- 事業メニュー区分
他職種連携による薬局の在宅医療サービス等の推進事業
- 開始年度:平成28年度～
- モデル地域
28年度:奥州地域、釜石地域、気仙地域(3,302千円)
29年度:花巻地域、北上地域、宮古地域(3,342千円)
30年度:盛岡地域、釜石地域(4,142千円)

2



多職種連携による在宅における薬学的管理モデル事業(取組内容)

- 28年度
 - 地域における薬局ビジョンの周知
 - 他職種との同行による在宅患者訪問
 - 地域での事例共有
 - 県内での事例共有
- 29年度
 - + モデル地域における住民説明会の開催
- 30年度
 - + ポリファーマシー解消の取組方法検討

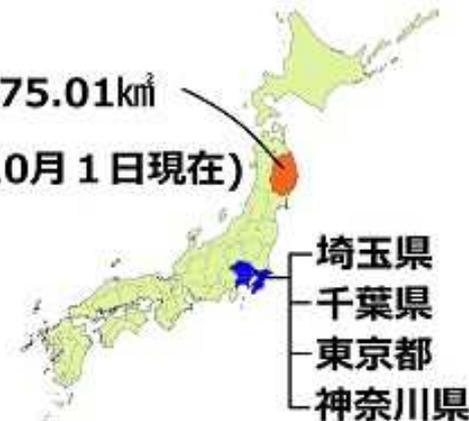
平成30年度 かかりつけ薬剤師・薬局推進指導者協議会
2019年2月1日 厚生労働省講堂

平成30年度 多職種連携による 在宅における 薬学的管理推進モデル事業

岩手県・岩手県薬剤師会

面積：15,275.01km²

(平成29年10月1日現在)



岩手県は本州の北東部に位置し、
東西約122キロメートル、
南北約189キロメートルと
南北に長い楕円の形をしています。
その広さは北海道に次ぐ面積であり、
日本面積の4%を占めています。

面積：13,565.49km²

(埼玉、千葉、東京、神奈川の面積をあわせたものより広い！)

2

岩手県の現状

【高齢化率】

32.5% (平成30年10月1日現在。岩手県人口移動報告年報)

※全国27.7% (平成29年10月1日現在。総務省「人口推計」)

【人口10万人当たりの死亡率】 (厚生労働省「平成29年人口動態統計」)

○悪性新生物<腫瘍>

370.0 (全国第44位) ※全国299.5

○脳血管疾患

155.6 (全国第46位) ※全国 88.2

○心血管疾患 (高血圧症を除く)

233.5 (全国第43位) ※全国164.3

○自殺

21.0 (全国第46位) ※全国 16.4

【薬剤師数】

2,303人 (平成28年末現在)

人口10万人当たりでは、

181.6人 (全国第45位) 全国237.4人の約76.5%

二次保健医療圏ごとの薬剤師数 (対人口10万人)

	岩手県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石	宮古	久慈	二戸
薬剤師数	181.6	230.5	175.8	150.0	154.7	147.6	168.8	120.0	81.0	170.9
薬局・医療施設 従事薬剤師数	150.2	178.5	147.1	132.8	136.7	125.4	147.9	107.1	77.6	161.8

資料：厚生労働省「平成28年医師、歯科医師、薬剤師調査」、岩手県「人口動態移動年報 (平成28年)」

【薬局、病院及び診療所に従事する薬剤師数】

150.2人 (全国第43位) 全国181.3人の82.8%

平成28年度
多職種連携による在宅における薬学的管理推進モデル事業

【事業の概要】

県内の3地域（奥州・気仙・釜石）において、市町村の地域包括支援センター等と連携し、薬学的管理に問題があると思われる在宅患者に対して、薬剤師が保健師及び介護支援専門員等と同行訪問を行い、在宅患者への薬学的管理・服薬指導を実施する。

5

平成28年度



6

患者の服薬管理に問題があることを認識している保健師及び介護支援専門員等だけでは改善できない事例であっても、薬剤師が同行訪問を行い、**多職種で連携しながら課題を抽出し、対応策を実施したことにより、服薬管理等の状況が改善された**ことから、事業の一定の効果があったと評価できる。

平成29年度
多職種連携による在宅における薬学的管理推進モデル事業

【事業の概要】

県内の3地域（**花巻・北上・宮古**）において、薬剤師が市町村の地域包括支援センター等と連携し、薬学的管理に問題があると思われる在宅患者に対して、保健師及び介護支援専門員等と同行訪問を行い、在宅患者への薬学的管理・服薬指導を実施する。

8

他職種との連携ツールとして
ケアマネカード（名刺サイズ）を作成しました！

ケアマネジャー情報カード

■ 事業所名		
■ 介護支援 専門員名		
■ 電 話 F A X	電話	FAX
■ メモ		

岩手県薬剤師会

ケアマネ情報を記載し、
おくすり手帳に、貼付・封入

おくすり手帳に、
ケアマネ情報を記載するページを作りました！

ケアマネジャー等 連絡先

事業所名

介護支援
専門員名

電話

FAX

メモ

7

12

介護支援専門員との連携ツールの活用推進！

薬剤師に 相談して下さい!!

利用者さんのために

こんなことありませんか？

- 一人暮らしで薬の管理が出来ない
- 飲みづらい、飲んでくれない、服薬の介助に難儀がからん
- 飲み忘れてしまう
- 飲んだりして大丈夫？
- 何に効くかわからない
- たくさん種類を飲んで大丈夫？
- 飲み合わせは？

薬剤師はこんなことができます！

- 薬の正しい飲み方指導
- 薬の副作用や多くの健康食品との「飲み合わせ」の確認
- 「飲みにくい」薬を他の薬への変更検討

他にも...

- ご担当の介護支援専門員への薬の使用法や留意点など情報提供の業務
- サービス担当者会議への意見提供、必要時の会議への参加
- 主治医への連絡、報告など
- 医師と連携して薬を調整して調剤
- 病院内や他の薬局で調剤された薬を一包化するなど（外来薬支援）
- 居宅療養管理指導による定期訪問支援（薬の一包に、管理についての貼紙、医薬品など）

※ 医療・介護保険制度を利用して、薬剤師の訪問サービスが受けられます。（介護保険の利用費助成には含まれません）

アセスメントシートをご利用ください！

① アセスメントシートの準備
② 情報を基に臨床支援専門員と連携して相談・支援の業務

③ 利用者
④ 薬剤師
⑤ 介護支援専門員

① 利用者の抽出
② アセスメントシートに記録
③ かかりつけ薬局へアセスメントシートを送付

薬局 行
調剤介護支援専門員

事業所名 _____ TEL (____) ____-____ FAX (____) ____-____

利用者氏名 _____ 生年月日 (西・大・期) _____ 種 _____ 年 _____ 月 _____ 日 (歳) _____

要介護度 要支援 1・2 要介護 1・2・3・4・5

姓 名 _____ 氏名 _____

高専種別名 _____ 支店名 _____

生活状況 同居・日中独居・独居・施設入所・その他(____)

【お薬の管理と服用について】 ※該当する項目に○印

1 薬を服用していますか？ はい・いいえ・不明

2 お薬手帳を持っていますか？ はい・いいえ・不明

3 複数の医療機関から薬をもらっていますか？ はい・いいえ・不明

4 薬の管理は誰が行っていますか？ 本人・家族・ヘルパー・看護士・その他(____)

5 薬の管理方法はどのようになっていますか？ カレンダー・薬箱・その他(____)

6 薬を指示通りの方法で服用できていますか？ はい・いいえ・不明

※ 6で「いいえ」と回答された方へ
① 飲めない原因は何かあると思いますか？ ※該当する項目に○印

服薬に問題のある利用者についてアセスメントシートに記入いただき、調剤している薬局に連絡！

ねたきり...
くるまいます...

在宅医療を受けている家族のことで相談したいんだけど...



平成30年度 多職種連携による 在宅における 薬学的管理推進モデル事業

平成30年度
多職種連携による在宅における薬学的管理推進モデル事業

【事業の概要】

県内の2地域（以下「モデル地域」という。）において、**市町村の地域包括支援センター等と連携し**、薬学的管理に問題があると思われる在宅患者に対して、**薬剤師が保健師及び介護支援専門員等と同行訪問を行い、在宅患者への薬学的管理・服薬指導を実施**する。なお、モデル地域の選定にあっては、医療密度の高い都市部としてアンケート調査を実施した岩手県立中央病院の所在する盛岡地域と、医療密度の低い地方として沿岸部の一地域を想定している。

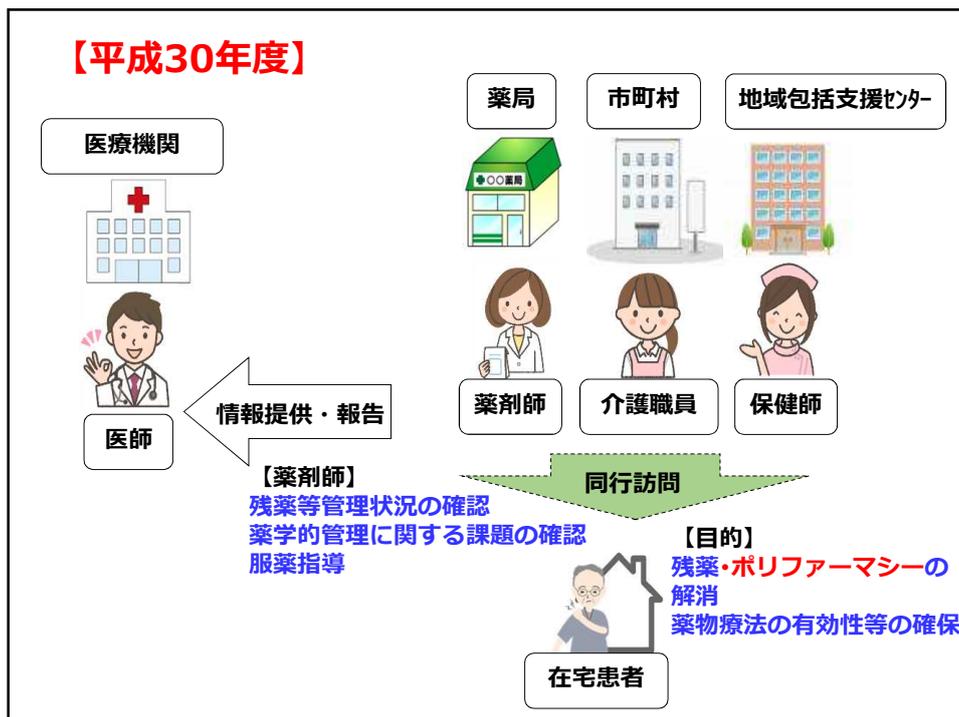
また、**在宅患者における薬学的管理に関する課題（コンプライアンス、アドヒアランス、重複受診、ポリファーマシー等）を抽出し、当該課題の解決方策を検討する。**

15

平成30年度



16



平成30年度 多職種連携による在宅における薬学的管理推進モデル事業

【事業の概要】

- (1) 事業検討会議の開催
- (2) 事業説明会及び研修会の開催
- (3) 「患者のための薬局ビジョン」に係る
研修会の開催
- (4) 住民説明会の実施
- (5) 同行訪問の実施
- (6) 事業報告会の開催
- (7) シンポジウムの開催
- (8) 事業実施に係る普及啓発

18

保健師及び介護支援専門員等と同行訪問

【同行訪問の実施】 ～抽出から訪問までの流れ～

- ①地域包括支援センター及び介護支援専門員が該当者を抽出。
- ②事業該当者（患者）の情報を地域薬剤師会担当者へ連絡。
- ③地域薬剤師会担当者、かかりつけ薬局へ連絡し、同行訪問を依頼。
- ④かかりつけ薬局の薬剤師は、事業該当者のご都合を踏まえ、同行者（地域包括支援センター職員もしくは介護支援専門員）と日程調整を行い、同行訪問。

19

保健師及び介護支援専門員等と同行訪問

○盛岡

- 事例 1：男性・75歳、要介護1（同行者：介護支援専門員）
- 事例 2：女性・73歳、要介護2（同行者：介護支援専門員）
- 事例 3：女性・83歳、未申請（同行者：介護支援専門員・保健師）
- 事例 4：男性・61歳、要介護2（同行者：介護支援専門員）
- 事例 5：女性・76歳、要介護2（同行者：介護支援専門員）
- 事例 6：女性・75歳、要介護1（同行者：介護支援専門員）

○釜石

- 事例 1：女性・90歳、要支援2（同行者：介護支援専門員）
- 事例 2：男性・90歳、要介護3（同行者：介護支援専門員）
- 事例 3：男性・81歳、要支援1（同行者：介護支援専門員）
- 事例 4：男性・97歳、要介護1（同行者：介護支援専門員）
- 事例 5：女性・82歳、要支援1（同行者：介護支援専門員）
- 事例 6：女性・78歳、要介護2（同行者：保健師）

20

【訪問した患者】 同行訪問アンケート

(6) あなたが薬剤師に求めることは、どんなことでしょうか

- ・ 薬についての質問や健康面の相談。
話を聞いてもらえると安心できる。
- ・ 薬のことで、わからないことについて
教えて欲しい。
- ・ 減薬に協力してほしい。

【同行した他職種】 同行訪問アンケート

(5) あなたが薬剤師に求めることはどんなことでしょうか

- ・ 個々に生活背景が異なるように、高齢者も生活に対する支障がそれぞれ違いがある。利用者の情報は、ケアマネからだけでなく、薬剤師自身でも観察することも大切だと思った。
その上で情報共有できればと感じた。
- ・ 利用者宅を訪問して、普段の管理の状況を確認し、薬剤師の視点で利用者や家族、支援者にアドバイスいただけたら、より身近で相談しやすいと思った。
- ・ 薬の量が多くて飲むのが大変と話す利用者の方が多い。医師は必要なので薬を処方していると思うが、利用者側の気持ちとしては減らしたいと感じている。そのような場合に薬剤師が関わることで医師との連携で薬の調整ができると良いと思う。
- ・ 医師との連携、服薬困難な方へのサポート。

【訪問した薬剤師】同行訪問アンケート

(6) 今後、薬剤師が訪問してくすりの管理を行っていくためには何か必要だと思いますか？

- ・多職種との情報共有 ⇒ ただし、情報の質が重要！
- ・多職種との連携 ⇒ 日頃から、合同研修会を企画・参加することで、他職種を業務を知るとともに顔の見える関係を作っておく。
- ・最適な薬物治療の提案 ⇒ 最新の情報を収集・習得。
- ・固定観念にとらわれない柔軟な考え、行動を起こすための勇気。
- ・訪問する必要性を薬剤師自身が認識すること、訪問に対するハードルを薬剤師自身がコントロールする（ハードルを下げる）こと。
- ・（訪問に充てる）時間及びマンパワー
- ・薬剤師会や薬局からのPR。
- ・他職種⇔薬局⇔医療機関の連携を円滑・簡便に行えるようにするツール。

平成28年度 多職種連携による在宅における薬学的管理推進モデル事業
釜石地区第4回事業検討会 報告書抜粋

釜石・大槌地区の 多職種連携に向けた今後の課題及び提案

○お薬手帳にケアマネ情報を載せる。

薬剤師は患者の生活の様子や服薬状況（残薬など）を知ることが困難である。大槌町では書式を作ってお薬手帳にケアマネ情報を載せ始めたところである。釜石広域介護支援専門員連絡協議会の総意を得て、釜石・大槌地区の三次連携で紹介してもらうこととした。

○アセスメントシートの紹介（在宅訪問可能薬局リストも併せて）

薬に関することで困っている患者さんがいたら、積極的にアセスメントシート（電話でも良い）を使ってもらおうこととした。

○病院薬剤師と薬局薬剤師の連携

病院薬剤師と薬局薬剤師は別の職種とらえて、チームかまいしの連携手法に載せることとした（具体的には、チームかまいし病院薬剤師の1次連携）。

24

患者にシームレスな薬物療法を提供していくためには、
病院薬剤師と薬局薬剤師の連携が必要。

しかし、現状は…

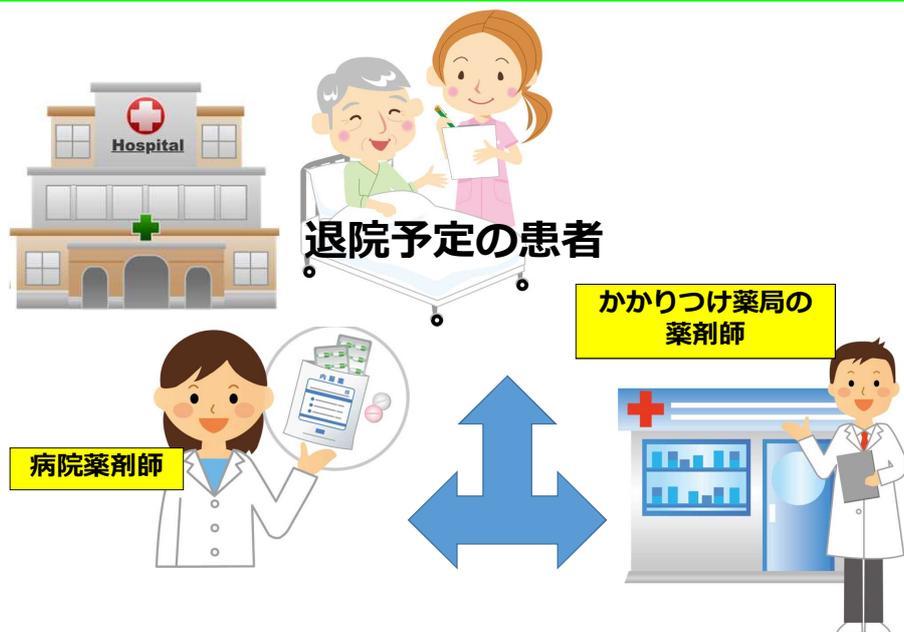
病院薬剤師は、患者が入院した際、持参薬を確認するが、マンパワーが必要なうえ、患者によっては、正確な情報が得られないことがある（他医療機関を受診している場合、患者の協力が不可欠）。

薬局薬剤師は、患者情報に関して、処方箋の内容と患者や介護者から得た情報しか持ち合わせていない。

患者が入退院したことや新しいイベントが起きたこと等は、来局された患者等から聞いて初めて知ることとなる。

以上のような課題に対応することができないか？

釜石版 病院薬剤師と薬局薬剤師のバトンタッチ連携



釜石版 病院薬剤師と薬局薬剤師のバトンタッチ連携

- ①釜石医師会から医療機関（釜石病院・大槌病院・せいてつ記念病院）へ事業協力に関する依頼をしていただく。
- ②主治医又は病院薬剤師が対象患者を抽出する。
- ③病院薬剤師は、患者の同意を得た上で、対象患者のかかりつけ薬局を確認し、打合せ日時を決定する。
- ③病院薬剤師は、薬剤師会事業担当者に連絡する。
- ④かかりつけ薬局の薬剤師は、病院薬剤師から対象患者の情報を収集する。
- ⑤対象患者が退院後、かかりつけ薬局は病院薬剤師から収集した情報をもとに対応し、経過について病院薬剤師にフィードバックする。

釜石版 病院薬剤師と薬局薬剤師のバトンタッチ連携

【情報提供方法】

- せいてつ記念病院（対象患者：女性・78歳）
 - ・退院時カンファレンスに、病院薬剤師・薬局薬剤師が参加
 - ・「**薬薬連携チェックシート**」による患者情報の提供
- 岩手県立釜石病院（対象患者：男性・75歳）
 - ・**退院時服薬指導記録**を「**OKはまゆりネット**」上に掲載。
 - ・入院前に利用していた薬局に連絡。
- 岩手県立大槌病院（対象患者：女性・89歳、男性・75歳）
 - ・入院前に利用していた薬局の薬剤師が、病院に出向き、病院薬剤師から直接、情報（指導記録、お薬手帳の記載内容、**薬歴管理表**）提供を受ける。

FUJIFILM C@RNA Connect

受信一覧 (0) | 送信一覧 (248) | 取消一覧 (8)

絞り込み
 最終更新日: ● 全て ○ 期間指定: 1980/01/01 - 2050/12/31 添付文書種別:
 ○ 日付指定: 2019/01/11
 依頼元施設: 依頼目的: 全て
 依頼元患者ID: 依頼先患者ID:
 患者氏名: 姓: 名: 患者氏名フリガナ: セイ

受信一覧

既読	送信	依頼元施設	依頼先患者ID	患者氏名	診療/検査日時	診療/検査項目	ステータス	受取済
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	まつら国際薬局		██████████				
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	岩手県立釜石病院		██████████				
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	まつら国際薬局		██████████				
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	岩手県立釜石病院		██████████				
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	まつら国際薬局		██████████				
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	岩手県立釜石病院		██████████				

詳細情報
 作成者名: 佐々木 千穂
 作成者所属施設名: まつら国際薬局
 作成者職種: 薬剤師
 作成者所属診療科: 薬剤科 住継先生
 平素よりお世話になっております。
 ████████様の退院時記録を拝見させて頂きました。詳しく書いていただき、ありがとうございます。
 心不全の悪化により入院されていたCDKも進行しているとの事で、今後の薬物治療について、薬局として注意していただきたい点をまとめたので、この方向性で心機を確定お願い致します。
 ①心不全については、「お薬ガイド」追加に伴い、胸の苦しさを軽減」との事ですので、今後も利尿剤の各種とサムスカの併用は継続すると思える。また、脱水、ミネラル異常には気をつけていく必要あり。
 薬局では、主にご家族からの聞き取りがメインになってくると思うので、ご家族からの状況確認をしっかりと行っていく。
 ②CDKについては、G4に位置し、DOAK-VKACに変更検討の事ですので、薬剤変更になった際には、休薬期間等、患者さんとご家族に十分な説明を行う。一応化しているため、服用開始日を分覚帳にも記載し、分かりやすくしたいと考えています。
 CDK患者における、抗凝固薬使用は、VKAであってもDOACであっても、脳出血リスク、歯肉出血中のリスクが増大するので、出血についても十分な説明を行っていき、特にVKA投与では、血管の石灰化リスクがCDKで顕著になるという報告があるので、脳血管イベントが起きないように注意していく。
 今後CDKが進行し、透析導入にならないように、血圧管理、血糖値管理もしっかり行っていき。
 ③薬と薬の相互作用、食事制限は難しいと考えるので、薬剤でのコントロールをしっかりと行い、服用アドヒアランスの維持を目標にしていきたいと考えています。
 また、投薬後の情報提供を行わせて頂きます。
 もし、御実業所御前の方で何か確認してほしい点がありましたら、ご連絡をお願い致します。
 最後に、医師から水分摂取制限が出ているのかと、血糖値等の検査結果も教えて頂けると幸いです。
 今後ともよろしくお願致します。
 まつら国際薬局 担当 佐々木

**今後の
薬物治療に関する
薬局としての考えを
病院薬剤師に伝え、
両者で方針を確認**

釜石版 病院薬剤師と薬局薬剤師のバトンタッチ連携

- 薬歴管理表の記載事項
- 基礎情報：ID 名前 年齢 性別 生年月日
 - 診断名
 - 既往歴
 - 禁忌 副作用情報 アレルギー歴
 - 検査値：Scr eGFR HbA1c など適宜
 - 身体情報：身長 体重 BMI BSA
 - 嗜好品情報：タバコ アルコール 他
 - 服薬情報：持参薬の有無 OTC 健康食品
 - ADL：理解力 視力 手技力 聴力
 - 職業
 - 家族状況
 - 服薬状況
 - その他（介護度など）

薬剤管理表

患者氏名	性別	年齢	生年月日	住所	
佐々木 千穂	女	45	1974/03/15	〒985-0801 釜石市	
診療科	薬剤科	担当	住継 先生		
入院病室	内科	病室	101		
入院日	2019/01/10	退院日	2019/01/15		
主治医	住継 先生	薬剤師	佐々木 千穂		
処方薬	CDK	利尿剤	サムスカ		
検査値	Scr	0.8	eGFR	70	
HbA1c	5.5	BMI	22	BSA	1.6
嗜好品	タバコ	アルコール	他		
服薬情報	持参薬	有無	OTC	健康食品	
ADL	理解力	視力	手技力	聴力	
職業	家族状況	服薬状況	その他	介護度	

釜石版 病院薬剤師と薬局薬剤師のバトンタッチ連携

【考察等】

○せいてつ記念病院

- ・退院時カンファレンスにより、詳細情報を薬剤師間で共有が可能であった。
- ・残薬管理等について、ルールを作成し、患者&医師の負担減となる方法の構築が必要。
- ・「薬薬連携チェックシート」の検証。医療資源の不足

○岩手県立釜石病院

- ・「OKはまゆりネット」は、病院薬剤師と薬局が連携するツールとなりうる。
- ・薬剤師同士の視点で退院時服薬指導記録を確認することで、効率的に情報を得られる。
- ・薬薬連携に留まらず、多職種連携による薬学的管理が行える可能性がある。

○岩手県立大槌病院

- ・連携により必要な情報をあらかじめ伝えたことがスムーズな移行に役立った。また、患者家族の心理的な負担を減らすことができた。
- ・薬局からの処方薬に対する有用な提案により、患者家族の在宅での服薬管理の負担が低減した。

ポリファーマシー関連

(事業仕様書抜粋)

- ポリファーマシーに対する意識調査を行っていない地域については、地域の実情を調査の上、その解決方策について検討すること。

⇒ **釜石地域**

- 医療従事者等に対するポリファーマシーに対する意識調査の結果等を踏まえ、事業の具体的な実施方法、在宅患者における薬学的管理に関する課題の抽出及び当該課題の解決方策を検討すること。

⇒ **盛岡市**

36

釜石地域の医師・薬剤師を対象とした ポリファーマシー問題に関するアンケート

【対象】

- ・釜石地域で開業・勤務する医師及び薬剤師

【方法】

- ・釜石医師会及び県立釜石病院に、ご協力いただき依頼。
- ・FAXで回答を受付
(釜石病院は薬剤科でとりまとめ)

【回答数】

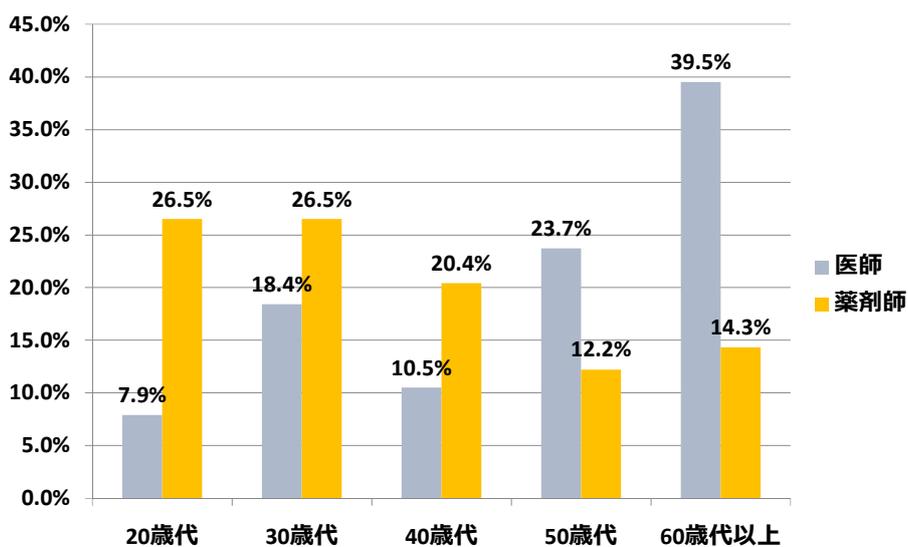
- ・医師：38名／51名 (74.5%)
- ・薬剤師：49名／63名 (77.8%)

【設問について】

平成29年度に、県立中央病院・盛岡市医師会・盛岡薬剤師会
が実施した内容と同様とした。

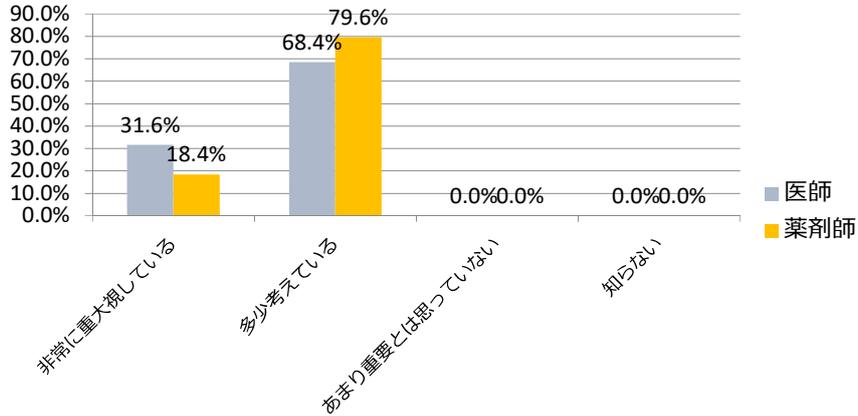
釜石地域の医師・薬剤師を対象としたポリファーマシー問題に関するアンケート

・ 回答者の年齢



釜石地域の医師・薬剤師を対象としたポリファーマシー問題に関するアンケート

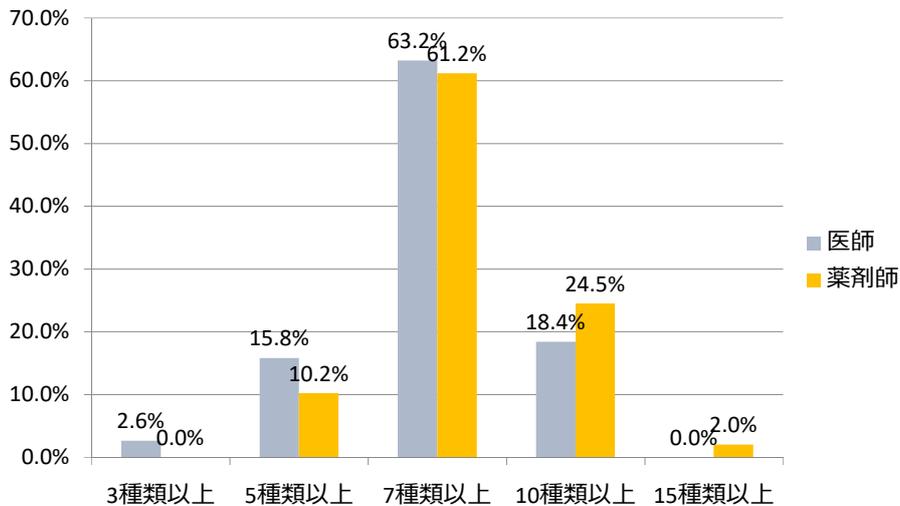
・ポリファーマシーの問題は、
どれくらい重要な問題と考えていますか？



医師、薬剤師ともに、
回答者全員がポリファーマシー問題を「重要」と考えている。

釜石地域の医師・薬剤師を対象としたポリファーマシー問題に関するアンケート

・処方する（される）薬が何種類以上だと
「多い」と感じますか？



釜石地域の医師・薬剤師を対象としたポリファーマシー問題に関するアンケート

・薬の数が増える原因は何だと思われますか？
(複数回答可)

選択肢	医師	薬剤師
ひとりの患者が抱える病気の多さ	86.8%	57.1%
患者が複数の医療機関を受診するため	73.7%	85.7%
薬の副作用対策のための処方追加の必要性	23.7%	61.2%
MRによる宣伝の影響	2.6%	6.1%
個々の病状に対応する西洋医学の弊害	10.5%	26.5%
各種治療ガイドラインに従うと増える	18.4%	28.6%
院内他診療科での処方薬剤が分かりにくい	21.1%	18.4%
新薬を使ってみたくなる医師の心情	2.6%	2.0%
日本では薬が安価に入手できるため	7.9%	12.2%
その他	10.5%	16.3%

釜石地域の医師・薬剤師を対象としたポリファーマシー問題に関するアンケート

・薬を処方（調剤）するとき、「合計何剤処方されているか」を気にされますか？

	医師	薬剤師
気にする	86.8%	69.4%
あまり気にしない	10.5%	26.5%

・薬を複数処方（調剤）するとき、患者が「指示通り服用できているか」を気にされますか？

	医師	薬剤師
気にする	86.8%	93.9%
あまり気にしない	10.5%	2.0%

釜石地域の医師・薬剤師を対象としたポリファーマシー問題に関するアンケート

【医師】

- 他の医療従事者から「薬の種類を減らした方が良い」という趣旨の連絡を受けたことがありますか？

	医師
ある	44.7%
ない	55.3%

- 連絡は誰から受けましたか？（複数選択可）

他の医師	47.1%
自院薬剤師	17.6%
薬局薬剤師	52.9%
看護師	29.4%

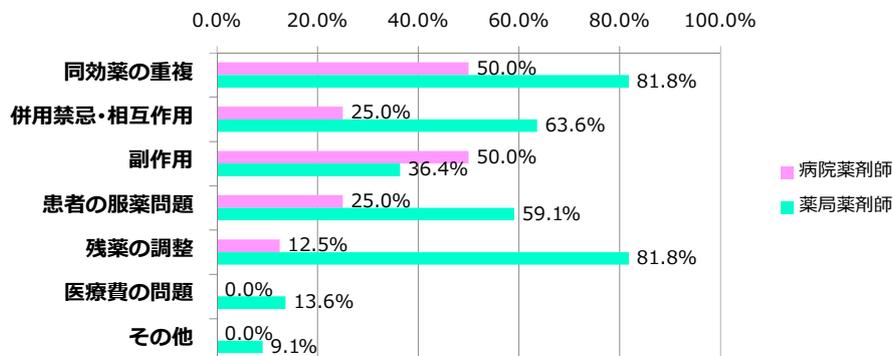
釜石地域の医師・薬剤師を対象としたポリファーマシー問題に関するアンケート

【薬剤師】

- 医師に減薬の処方提案をしたことがありますか？

	病院薬剤師	薬局薬剤師
ある	50.0%	66.7%

- どのような減薬提案をしましたか？



釜石地域の医師・薬剤師を対象としたポリファーマシー問題に関するアンケート

- ・患者から「薬の種類を減らして欲しい」と言われたことはありますか？

	医師	薬剤師
ある	78.9%	67.3%
ない	15.8%	32.7%

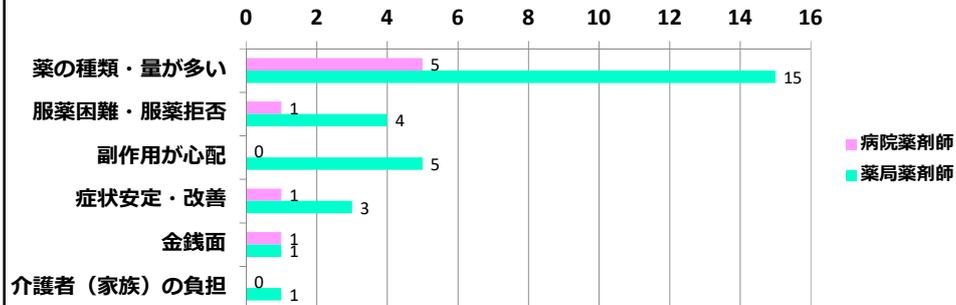
釜石地域の医師・薬剤師を対象としたポリファーマシー問題に関するアンケート

【薬剤師】

- ・患者から「薬の種類を減らして欲しい」と言われたことはありますか？

	病院薬剤師	薬局薬剤師
ある	56.3%	72.7%

- ・どのような理由で減薬を希望されたのか？（複数回答可）



釜石地域の医師・薬剤師を対象としたポリファーマシー問題に関するアンケート

【医師】ポリファーマシー問題に関する主な意見

- 薬が多いので減量を提案しても**不安感を示し、抵抗を訴える患者が多い。**
- 患者の訴えや検査データを見るとどうしても薬が必要と考えてしまう。
- 患者サイドも「薬を出してくれる医師=ちゃんと対応してくれている医師」と考えている方が多いように感じる。
- 単に減らせば良いという問題ではない。多科にかかる患者が問題であり、各科1剤でも減らす努力が必要。
- 患者さんの病状悪化のおそれや処方希望があり、なかなか困難である。また、他院・他科の処方に対しては、要・不要について、なかなか指摘しづらいということもある。
- 患者及び医師のポリファーマシーに関わる**理解をもっと深める必要がある。**
- **入院中が、大きなチャンスだと思う。**改めて検査したり、減量による症状の再燃などを観察しながら減量できるため。
- **漫然と処方続けるのではなく、常に減らすことができないか考えていなければならないと思う。**
- **薬剤師からの提案により、数量が減少することが多い。**
- 個々の医院、他の診療科での患者さんに対しての**連携**が出来れば良いと考えます。
- その薬剤が治療に反映されているかどうか、他科の医師同士や処方者と薬剤師などとの**連携**は、今後非常に重要になってくると思う。
- 患者さんも必要最小限の薬を投薬されるように、情報を得られるようにし、残薬を極力無くすように**みんなで**努力していかなければならないと思います。

釜石地域の医師・薬剤師を対象としたポリファーマシー問題に関するアンケート

【病院薬剤師】ポリファーマシー問題に関する主な意見

- 他剤無効例や効果不十分事例等、患者の病態的背景により、切れない薬だったりすると、その結果使用している薬剤だったという例もあり、医師との連携はもちろん必要なのだが、患者一人一人の吟味が果たして、現実的なのか、今現在の体制のまま、実践していけるのかと思います。
- 減薬を強く押し進めすぎると患者側は薬が急に減ってしまったことによる健康・病態への不安が残ってしまうと思う。患者の希望をくみとりつつ、不安を極力少なくするフォローをしていく等、バランスが難しい取り組みであると思っている。
- 医師と気軽に話せる関係作りは大切だが、薬の主作用と副作用を把握し、伝えられるかが必要だと思う。
- ポリファーマシー問題について、積極的に取り組んでくれる医師がいて、減薬することに協力してくれた。

釜石地域の医師・薬剤師を対象としたポリファーマシー問題に関するアンケート

【薬局薬剤師】ポリファーマシー問題に関する主な意見

- 薬を減らすのに抵抗がある患者が多い。
- 薬の副作用対策のため処方追加されていき、薬剤の管理が困難になっていくことがある。
- 高齢の方が多く、誤嚥が気になる。
- 「ポリファーマシー」が多剤併用ということではなく、多剤併用により起こる有害事象のことであることを再確認したいと思います。「多剤併用」=悪ではなく、有害事象の有無を確認することが大切だと思います。有害事象がないのに薬を減らすことだけ考えるのは危険だと思います。
- 認知症の患者さんで、服用していると少しふらつきが出る患者だったが、吐き気や胸やけのような症状で飲み始めた薬を、症状が治まっている中でも服用をつづけていたので、ご家族とも相談して医師に中止してもらった。
- 医師から、「薬剤師に併用禁忌や腎機能低下患者への禁忌薬を指摘してもらい助かる」言われた。
- **服薬情報提供書**を使って、患者が薬を減らしたいと思っている旨を主治医に伝えたら減薬につながった。
- 患者が、**かかりつけ薬局**を決めて、そこで一元管理をすると複数科・医療機関を受診しての多剤併用がある場合、減薬を進めやすいと思います。

トレーシングレポートの活用

2018年7月19日

岩手県立中央病院薬剤部 宛
FAX: 019-605-871 E-mail: chuo-yakuzai@pref.wate.jp

盛岡上田地区保険薬局-県立中央病院 患者情報連絡票

患者名	患者ID
診療科	医師名
処方日	調剤日
連絡事項 (検査許可)	<input type="checkbox"/> ① 副作用疑い <input type="checkbox"/> ⑤ 残薬 <input type="checkbox"/> ② 相互作用疑い <input type="checkbox"/> ⑥ 経済的問題 <input type="checkbox"/> ③ コンプライアンス不良 <input type="checkbox"/> ⑦ ポリファーマシー関連 <input type="checkbox"/> ④ 手技不良 <input type="checkbox"/> ⑧ その他()
+ 保険薬局からの報告事項 (情報提供、内容等)	<input type="checkbox"/> タイトル: <input type="checkbox"/> 当該薬剤名: <input type="checkbox"/> 報告事項:
	<input type="checkbox"/> 提案内容を考慮し、以下の通り対応しました。
当院からの回答	
結果	・重複投薬・相互作用等防止加算 ・薬剤総合評価調整管理料(外来患者対象) ・服薬情報提供料 ・連携管理加算(外来患者対象) ・服用薬剤調整支援料 ・薬剤総合評価調整加算(入院患者対象) ・その他() ・特になし

*重複薬等の情報につきましては、お手数ですが別紙「お薬手帳」の該当部分をごコピーし、FAXで送信願います

保険薬局名 _____ 中央病院 薬剤部

担当薬剤師 _____ 担当薬剤師

E-mail _____ E-mail

- 以前より患者情報の共有ツールとしていた「患者情報連絡票」をリニューアル。
- まず、「**上田地区 薬・薬連携研修会**」に参加している薬局で活用。
- **ポリファーマシー関連のみならず、薬局で知りえた患者情報※を患者の同意に基づき、県立中央病院薬剤部へ報告。**
 - ※①副作用疑い ②相互作用疑い
 - ③コンプライアンス不良 ④手技不良
 - ⑤残薬 ⑥経済的問題
 - ⑦ポリファーマシー関連 ⑧その他
- 薬局が報告した情報を県立中央病院薬剤部で検証し、医師への報告に介入(必要に応じて、処方提案も実施)。
- 介入結果を当該薬局にフィードバック。

【トレーシングレポート改訂後集計】 (9月10日開始 12月末時点)

●**総数：54件**

<内訳>

○**内容精査：15件**

- ・病院薬剤師も介入しての減薬提案
(変更事例：眠剤の変更、痛み止め変更、等)
- ・保険薬局の減薬等提案のみ (病院薬剤師未介入)

○**内容精査不要：39件**

- ・情報提供のみ
- ・用法変更依頼
- ・一包化提案、等

盛岡上田地区保険薬局-県立中央病院 患者情報連絡票

患者名	患者ID	診療科	ペインクリニック科	医師名	
処方日	9月7日	調剤日	9月7日		
運送事項 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 副作用疑い <input type="checkbox"/> 相互作用疑い <input type="checkbox"/> 経済的問題 <input type="checkbox"/> コンプライアンス不良 <input type="checkbox"/> ポリファーマシー関連 <input type="checkbox"/> 手技不良 <input type="checkbox"/> その他				
*保険薬局からの報告事項 (情報提供、内容等)	○タイトル: 患者よりのまい、吐き気の訴えあり ○当該薬剤名: ワントラム錠100mg ○報告事項: いつもお世話になっております。 9/10(月)朝より吐き気、めまいが強く出ていると連絡がありました。 9/7(金)より追加になったワントラム錠100mgが影響している可能性が高いと判断し、 処方箋に指示があった通り、ワントラム錠100mgを一旦中止していただき、 安静にして様子を見ていただくように指導致しました。 他のお薬については服用できる状態であれば継続していただくように指導しております。				
当院からの回答	○提案内容を考慮し、以下の通り対応しました。 肝、腎機能問題なく、他の痛み止め剤は副作用の懸念はあつたが、 リリリール錠、ワントラム錠、スインフロイ 削除、カバペン錠 600mg/日→300mg/日へ減量で対応しました。他の薬剤は継続 中。				
結果	神経障害性疼痛が問題の患者で、トラムセットやNSAIDsの追加を検討してはどうかと提案。→もう一度痛みの精査をと副作用の状況把握をするため上記のように薬剤を大幅に削除することとなった。				

* 重複薬等の情報につきましては、お手数ですが別紙「お薬手帳」の該当部分をコピーし、FAXで送信願います。

体調不良の訴えがあり、
鎮痛薬の副作用を疑い
情報提供

病院からの回答

盛岡上田地区保険薬局-県立中央病院 患者情報連絡票

患者名		患者ID	
診療科	がん化学療法科	医師名	
処方日	2018/10/29	調剤日	2018/10/29
連絡事項 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> ① 副作用疑い	<input type="checkbox"/> ⑤ 残薬	
	<input type="checkbox"/> ② 相互作用疑い	<input type="checkbox"/> ⑥ 経済的問題	
	<input type="checkbox"/> ③ コンプライアンス不良	<input type="checkbox"/> ⑦ ポリファーマシー関連	
	<input type="checkbox"/> ④ 手技不良	<input checked="" type="checkbox"/> ⑧ その他(発熱について)	
	○タイトル: 発熱		
○当該薬剤名: シスプラチン ゲムシタシン			
* 保険薬局からの報告事項 (情報提供内容等)			
○報告事項: いつもお世話になっております。 数日前から夕～朝にかけて37.8～38.3度の発熱が続いていたようです。 咳、倦怠感などの他の症状はないです。病院で話してなかったとことで報告いたしました。 発熱が続く、他の症状が出るようなら来院をすすめました。 次回受診時、対応よろしくお願いたします。			
○提案内容を考慮し、以下の通り対応致しました。 か、追加カドテ記事より 副作用発熱が強く、CRP上昇、骨髄低下(軽微)、化療継続、%CT 本人希望もあり、治療目的の発熱に対しカドテ100mgから500mgへ 変更し、本日(29日)にカドテ100mg 1回IT 100mg処方 はしています。尚、化学療法は継続指示となっています。			
結果 CDDP+GEM療法を実施中の患者でFNの可能性もあるためLVFXの処方(お守り的に)、発熱に対してカドテを頓服で処方してはどうかと提案。			

受診時に、医師に伝えてこなかった、(外来化学療法による)発熱について報告

← 病院からの回答

* 重複薬等の情報につきましては、お手数ですが別紙「お薬手帳」の該当部分をコピーし、FAXで送信願います。

【今後の取組み】

病院薬剤師が、入院患者に介入した事例のうち「特記事項」があった際の情報提供を検討中。

退院時施設間連絡票

日薬統一様式 退院時施設間連絡票 連絡日:平成 年 月 日

入院中におけるお薬に関する情報や調剤上の工夫等についてお知らせいたします。かかりつけの調剤薬局や病院・診療所を受診する際に持参し、情報をお伝えください。

退院時に服用している薬剤、中止となった薬剤の情報はここに当院処方薬や持参薬で中止となった薬剤の情報を記載する。

調剤情報留意点(院内で行った剤形工夫等)、副作用・アレルギー歴、服薬状況について記載

調剤上の留意点(剤形・剤量等)	副作用歴(アレルギー)	服薬状況
<input type="checkbox"/> 1包化	<input type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> ①服薬介助 <input type="checkbox"/> 自己管理 <input type="checkbox"/> 要介助
<input type="checkbox"/> 剤形	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> ②内服コップ/メス <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 不良
<input type="checkbox"/> 剤の他	<input type="checkbox"/> 不明	

その他特記事項(処方目的、患者への服薬指導上で注意すべき事項等)

共有したい患者情報や追加となった薬剤や中止となった薬剤の目的、肝障害、腎障害等特記すべき事項を記載予定。

盛岡県立中央病院
若手薬師岡上田1-4-1
019-653-1151
担当薬剤師

事業を通じて感じたこと（多職種連携）

- ① 効果的な情報をやり取りするために、連携先にとって何が必要な情報なのかを明らかにしておく必要がある。
- ② 薬剤師が訪問することへの抵抗感を減らすためにも、同行訪問は有意義な取り組みである。
- ③ 「薬剤師ができること」を、他職種・住民に向けて発信する必要がある。
- ④ 地域連携を進めるうえで、職能団体・組織間が基本となる。さらには、行政が第三者として、個人単位でなく職能団体単位で連携をコーディネートすると公立中立であるだけでなく、地域全体への波及効果が大きい。
- ⑤ 当事業で経験したプロセスを丁寧に重ねていくことにより地域の多職種連携が深化していく。

**顔の見える関係だけでは、本当の連携はできない。
同じ目的に向かって各々が職能を発揮してこそ連携！**





薬局は



身近な「健康相談所」

例えばこんなこと、

- 余ったお薬は、どうすればいいの？
- 食欲減退…不眠気味…
最近、体調が悪いんだけど…
- 大会があるけど、この薬、飲んでも大丈夫？
- タバコを止めたくても、止められなくて…
- 薬の副作用が心配
- これからお酒を飲みたいけど…
薬も飲んで、大丈夫かな…？
- お薬と健康食品の飲み合わせ、問題ない？
- 家族がちゃんと薬を飲んでいないみたい…

ありませんか？

地域の健康情報拠点
気になったら
まずはお近くの
薬局へ！

岩手県・岩手県薬剤師会

57

